

第1章 北九州市の景観特性

1 北九州市の概況

北九州市の景観特性について「地勢」、「都市形成」、「歴史文化」の3つの視点から整理します。

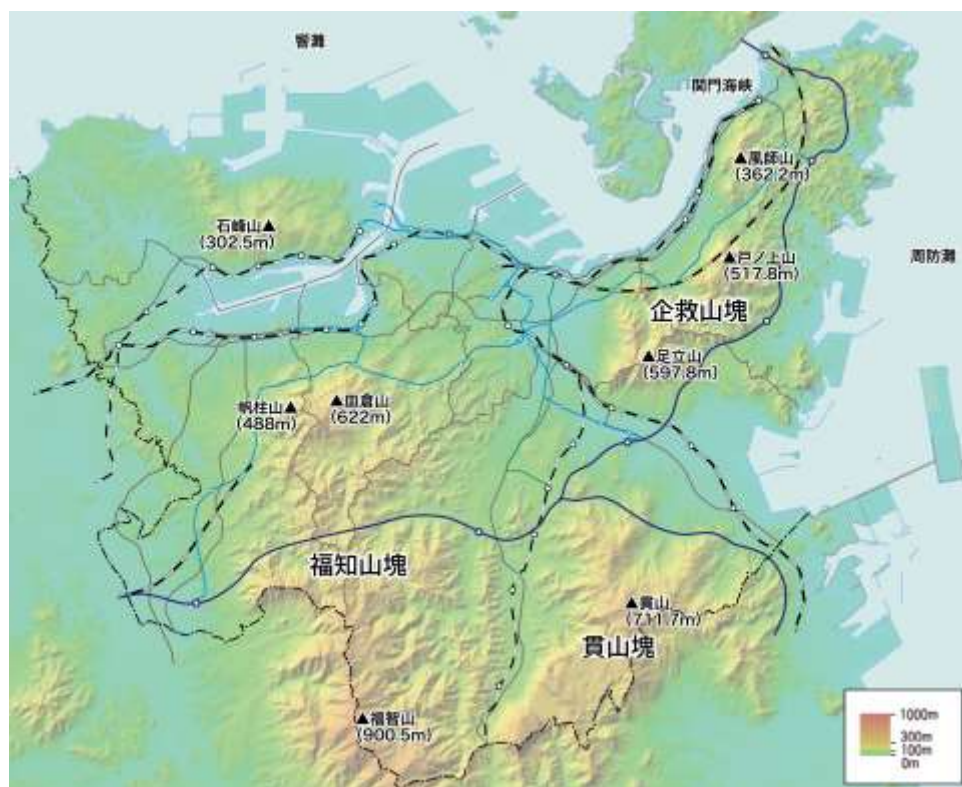
(1) 地勢

①山地

市域の多くは山地で大小の山塊が占めています。風師山・戸ノ上山・足立山からなる企救山塊、貫山塊、福智山・皿倉山・帆柱山からなる福地山塊など、標高 300～900m の起伏に富んだ山々が連なっています。

②平野

山々の麓に広がる平野部は、北部の臨海部に沿って東西に帯状に広がるほか、周防灘沿いや遠賀川流域などに分離・散在するのみです。この限られた平野部を中心として北九州市の市街地が形成されています。



図：山地と平野

出典：国土地理院の電子地形図（タイル）、色別標高図

③海岸線

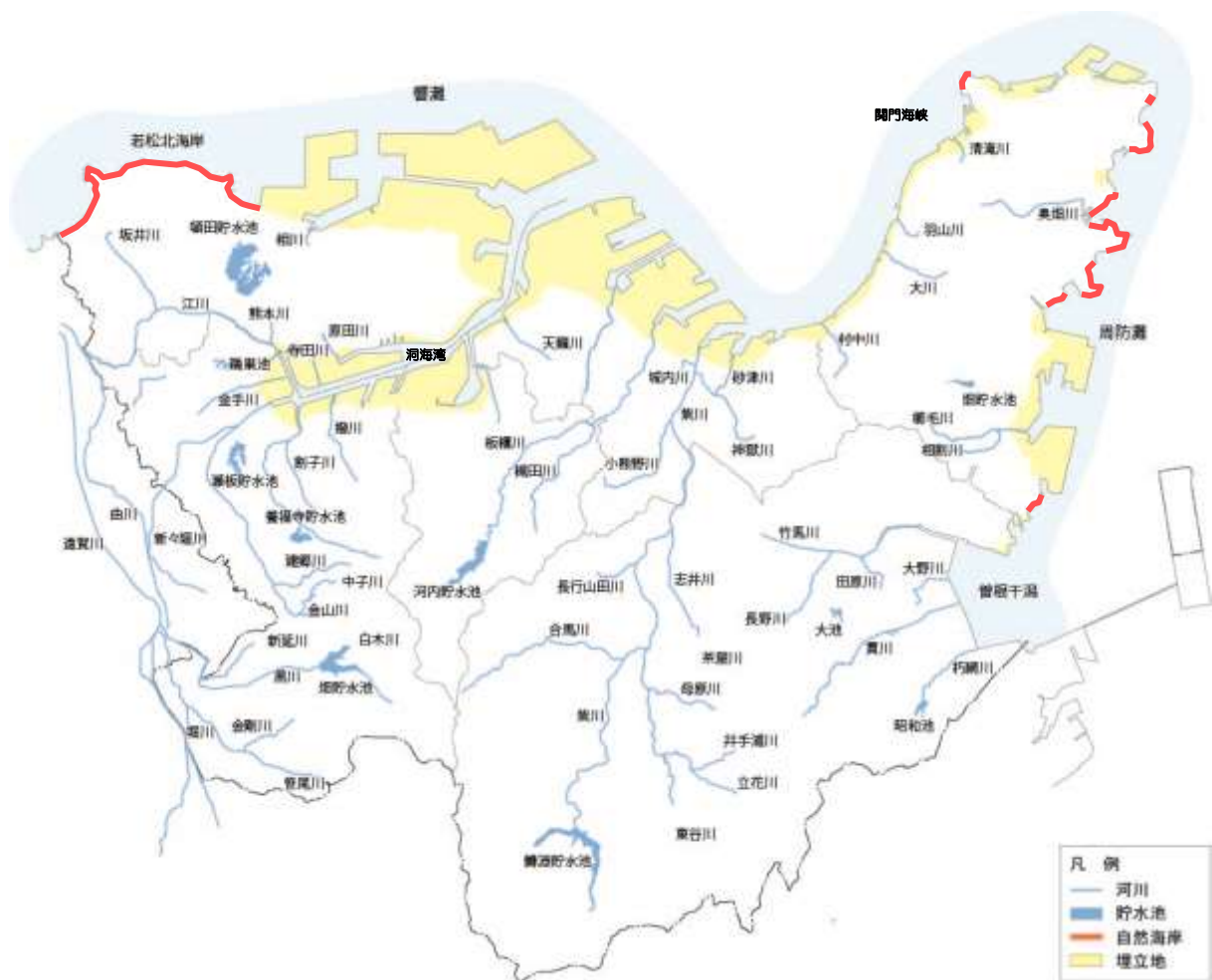
市域の北側は、関門海峡と響灘、東側は周防灘に面し、北西部には東西に細長い洞海湾をかかえています。市域の海岸線は、総延長約 200 k mと全国でも有数の長さを有し、多様な水際景観を見ることができます。

なお、臨海部の低地は埋立地、干拓地等の人口造成地が大半を占めており、自然の海岸は多くありません。

④河川

市域には、一級河川遠賀川水系のほか、二級河川に属する水系があり、54 の主要河川を有しています。

中でも、紫川、板櫃川、撥川では河川と街が一体となった整備が進み、うるおいのある都市空間を形成しています。



図：海岸線と河川

出典：国土数値情報「河川」

自然海岸及び埋立地は「新・海辺のマスタープラン」を参考に作成

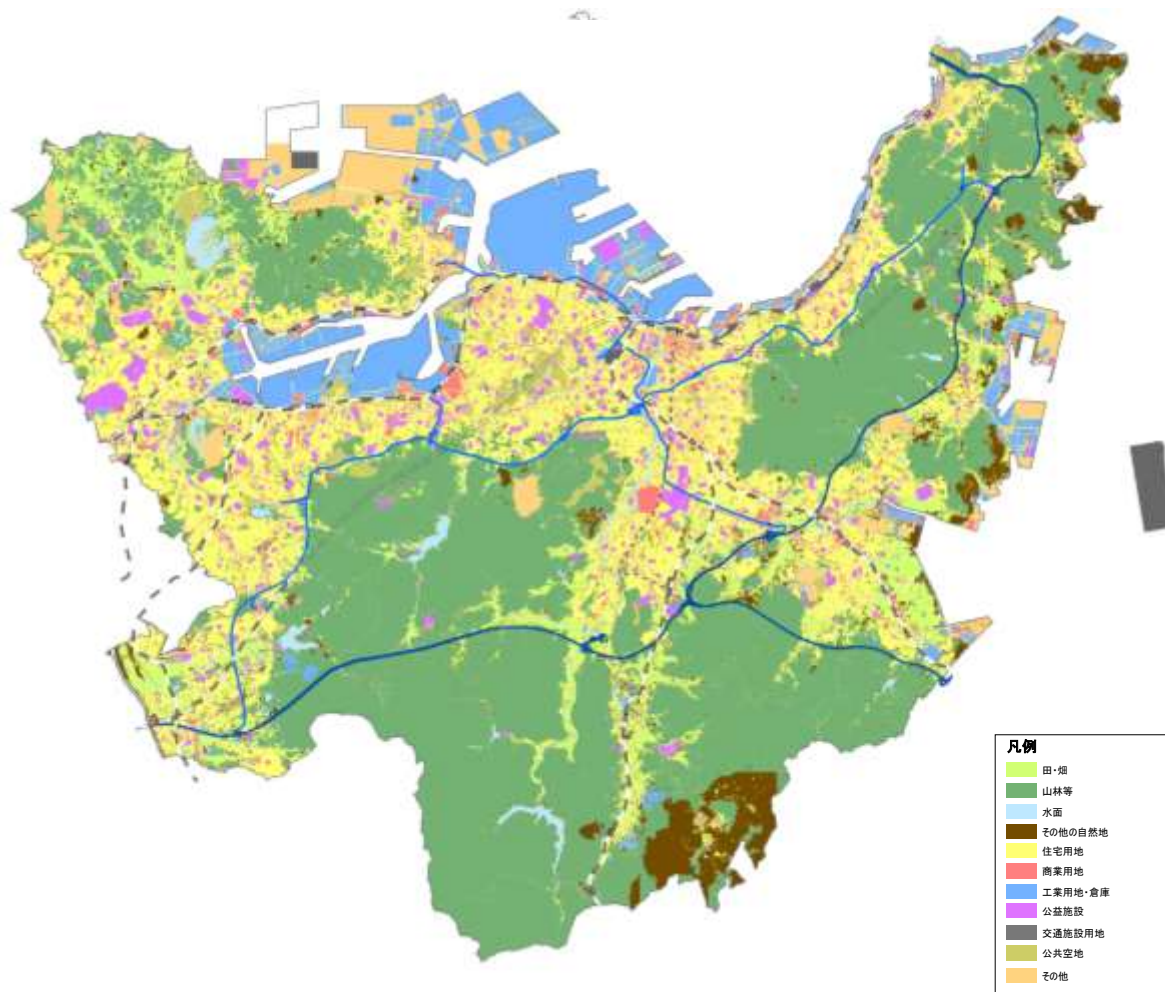
(2) 都市形成

① 土地利用

北九州市の市域面積は約 492 k㎡ありますが、地形的制約のため、海沿いの平野を中心とした東西に長い高密度な市街地が形成されています。市街化区域は約 204 k㎡あり、市域面積の約 42%を占めています。

市街地の後背となる小倉南区南部や若松区西部、八幡西区南部などでは、田畑が広がり、その背後に山林が広がっている状況がみられます。

また、北九州市の土地利用の特徴として、洞海湾周辺及び響灘の埋立地を中心に工業用地が集積しています。



図：土地利用状況

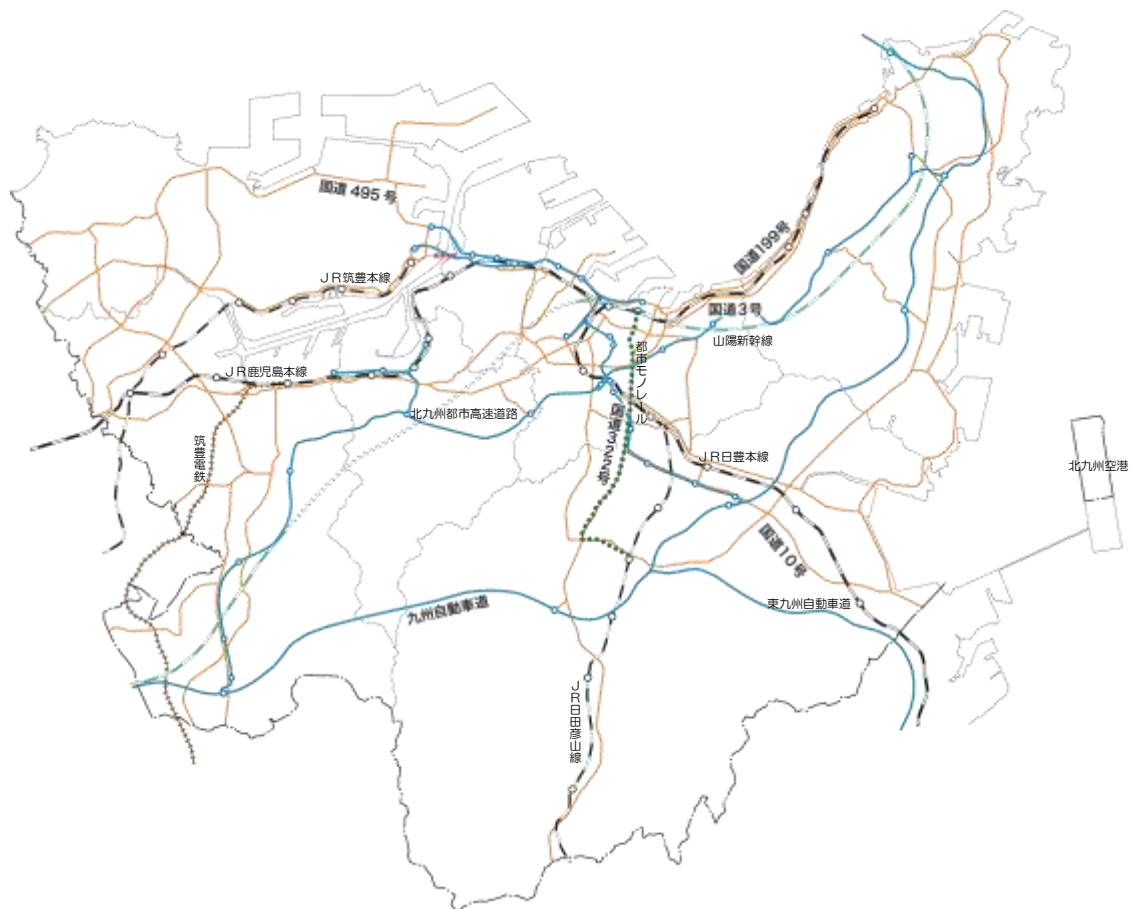
出典：北九州市都市計画基礎調査（平成 28 年度）

②交通網

市内には、公共交通や道路など交通施設が整備され、市街地の骨格となる交通網が形成されています。

軌道系交通は、山陽新幹線、鹿児島本線、日豊本線、筑豊本線、日田彦山線、筑豊電鉄および都市モノレールがあります。小倉駅、黒崎駅等は都市機能が集まる拠点であるとともに、多くの人が利用する交通結節点となっています。

道路は、広域交通を担う九州自動車道、東九州自動車道、市街地や拠点間を結ぶ都市高速道路、主要幹線道路がネットワークを形成しています。



図：主要交通網

出典：国土交通省「国土数値情報高速道路時系列データ」、
「国土数値情報鉄道データ」

(3) 歴史文化

① 歴史

<近世>

小倉は小倉城の築城により周辺諸国の商人や職人が集まる城下町として栄え、当時の町割が今も残っています。小倉から長崎に向かう長崎街道や小倉から中津に向かう中津街道など、九州各地へ向かう街道が整備されました。これらの街道沿いには宿場町が築かれ、木屋瀬、黒崎、大里においては、宿場町当時の面影が一部に残っています。



小倉城



木屋瀬

<近代>

明治 20 年代には、門司や若松が港湾都市として発展し、建築物や土木建造物などが多く建設されました。特に門司においては、横浜、神戸とならぶ国際貿易の港湾都市として、大正時代から昭和初期にかけて商社や金融機関が数多く立地し、今も多数の建築物が現存しています。

明治 30 年代には、八幡で官営八幡製鐵所が創業されたのを契機に、周辺に化学、窯業、電機などの諸産業も立地することで急激な工業化が進み、全国有数の工業都市となりました。そのため、当時の近代建築や工場・倉庫、土木建造物などの産業遺産が多く現存しています。



旧門司三井倶楽部本館



東田第一高炉跡

<現代>

戦後、北九州市は工場都市として再興し、響灘に面する埋立地を中心に多数の工場が立地しました。高度成長期に入り、昭和 38 年には、門司市、小倉市、若松市、八幡市、戸畑市の 5 市合併により、政令指定都市となりました。現在でも旧 5 市の特徴を引き継ぎ、それぞれのまちの顔を持っています。

② 伝統文化

北九州市では、各地域固有の伝統文化が受け継がれており、地域における風景の1シーンとなっています。



戸畑祇園大山笠行事（戸畑区）



小倉祇園太鼓（小倉北区）



黒崎祇園行事（八幡西区）



沼楽（小倉南区）



大積神楽（門司区）



前田の盆踊（八幡東区）

※北九州市文化振興計画で紹介している主な伝統文化

③四季の催し

北九州市では、夏の花火大会、冬のイルミネーションなど、年間を通じて様々なイベントが開催され、四季折々の風物詩として市民や観光客に楽しまれています。

春には、市内各所で桜が見られ、秋には、白野江植物公園の紅葉や金山川のコスモスなど、四季を感じる景観が随所に見られます。

春



勝山公園の桜



吉祥寺藤まつり

夏



まつりみなみ



関門海峡花火大会

秋



白野江植物公園の紅葉



金山川のコスモス

冬



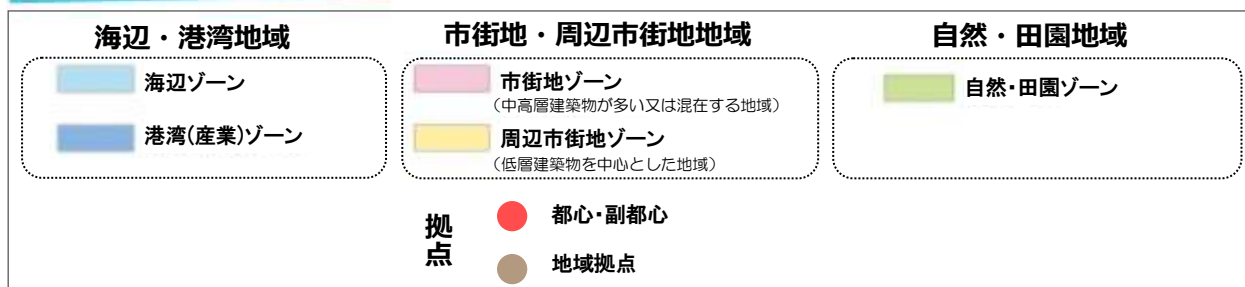
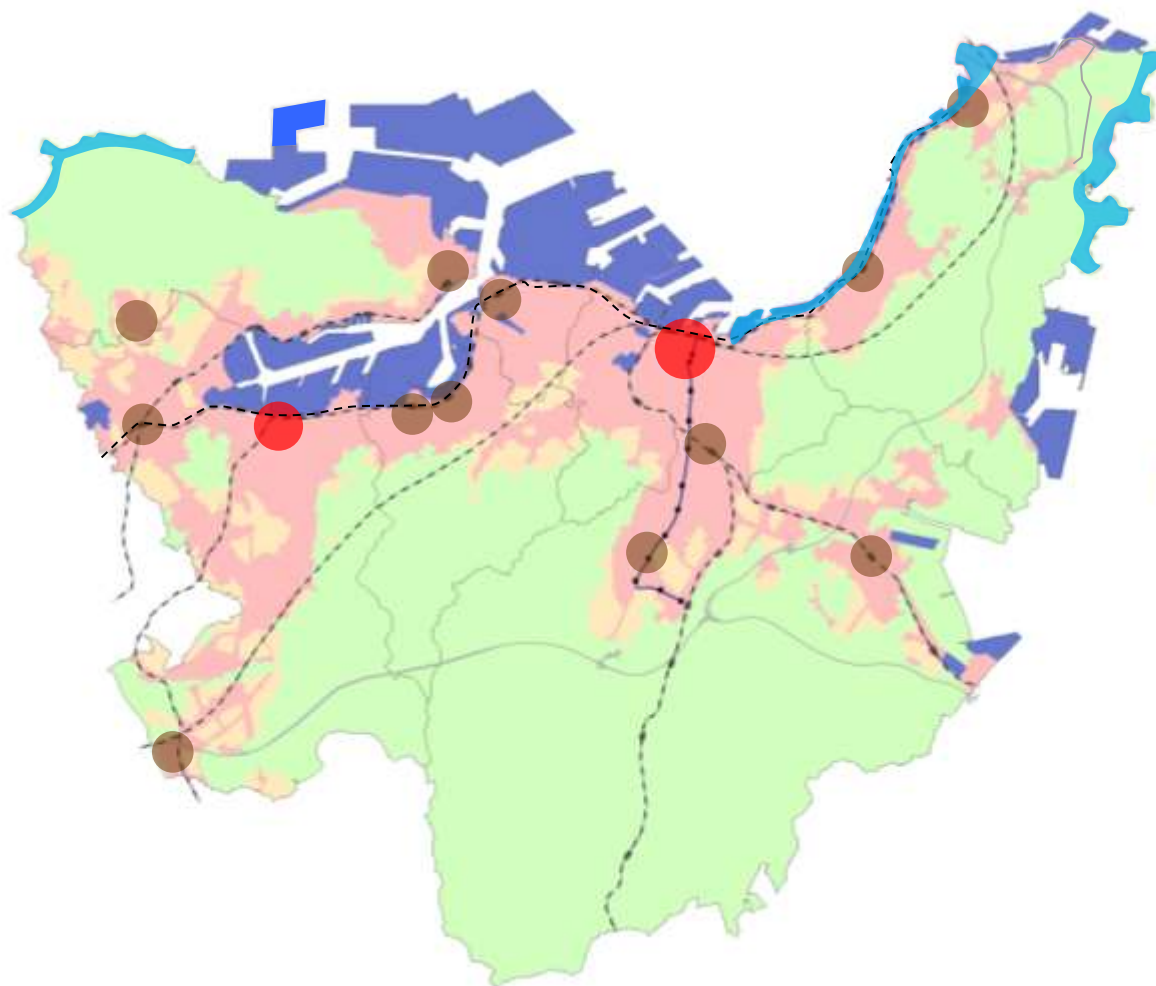
平尾台の野焼き



小倉イルミネーション

2 北九州市の景観特性

北九州市の景観特性は、「海辺・港湾地域」、「市街地・周辺市街地地域」、「自然・田園地域」の3つの地域に整理することができます。また、北九州市の顔となる都心・副都心や地域の顔となる地域拠点があり、近代の産業遺産や文化施設等が景観要素として点在しています。



図：景観特性の区分

(1) 海辺・港湾地域

①海辺ゾーン

- ・全国有数の長さを有し多様な顔を持つ水際景観が形成されています。特に関門地域は、まちと海が一体となったダイナミックな景観を有しています。また、多くの視点場から美しい関門海峡の景観を望むことができ、対岸には下関市の市街地が望め、夜間景観も眺望できます。
- ・喜多久自然海浜や若松北海岸などの自然海岸では、多くの市民に親しまれる自然景観を有しています。



関門橋



若松北海岸（遠見ヶ鼻）

②港湾（産業）ゾーン

- ・北九州市の沿岸部の大部分は、大規模な工場・倉庫、煙突、コンテナ・クレーンなどが並ぶ、躍動するものづくり都市を象徴する産業景観が形成されています。近年では工場夜景クルーズなども行われ、照明でライトアップされた幻想的な工場夜景を見ることができます。
- ・若松区響灘では、北九州市の環境施策をリードするエネルギー関連施設が立地しており、沿岸に風車が建ち並ぶ景観を有しています。
- ・北九州空港周辺では、背景の緑豊かな山並みや前面の周防灘への眺望に調和した、開放感のある景観が形成されています。



太刀浦コンテナターミナル



工場夜景

(2) 市街地・周辺市街地地域

①市街地ゾーン

- ・ オフィスなどの業務施設や、飲食店やスーパーなどの生活利便施設などが集積し、人々の社会活動や日常生活などの場として、まちの活力を感じる都市景観が形成されています。



市街地の中高層建築物

②周辺市街地ゾーン

- ・ 周辺市街地の大半は低層を中心とする住宅地景観が形成されています。
- ・ 幹線道路沿いでは、郊外型店舗等による沿道景観が形成されています。
- ・ 周辺市街地周縁には面的に整備された住宅地景観が形成されています。



低層の住宅地

(3) 自然・田園地域

①自然・田園ゾーン

- ・ 北九州市の大部分は山地が占めており、緑豊かで起伏に富んだ山並み景観を形成しています。
- ・ 山林や河川などと一体となった、のどかな田園風景が形成されています。
- ・ 市街地に隣接する山並みは、市街地景観の背景としてうるおいを与えています。



表情のある山並み景観

(4) 都心・副都心と地域拠点

① 都心・副都心

- ・ 都心・副都心では、中高層の建築物や高次の都市機能が集積し、多くの人々が行き交う、北九州市の顔となる象徴的な都市景観が形成されています。
- ・ 小倉都心地区の中心を流れる紫川周辺では、周辺の市街地との一体的な整備が進み、美しい水辺景観が形成されています。また、勝山公園をはじめ緑地とオープンスペースが都市空間にうるおいを与えています。
- ・ 小倉駅の北側では国際展示場やスタジアムといった大規模な施設が集積し、海に開かれたダイナミックな市街地景観が形成されています。
- ・ 黒崎副都心地区では、黒崎駅を中心とした放射状の市街地が形成されており、駅から南にのびるふれあい通りは副都心のシンボルロードとなっています。



北九州モノレール



黒崎駅前

② 地域拠点

- ・ 都市機能が集積し、地域の顔となる都市景観を形成しています。
- ・ 城下町の町割りや長崎街道の宿場町の面影、近代建築物や産業遺産などが残っており、地域の景観を形成する重要な要素となっています。
- ・ 地域のシンボリックな美術館や博物館といった文化施設が地域の景観を形成する重要な要素となっています。



木屋瀬のまちなみ



旧古川鉱業若松ビルと若戸大橋